

## 第6学年〇組 道徳科学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時  
授業者 教諭

- 1 主題名 広い心で受け入れる
- 2 ねらい 相手を許したり、考えられたりする登場人物の考え方について話し合う活動を通して、相手を許すことの素晴らしさに気づき、広い心で受け入れようとする心情を育てる。

教材名 「銀のしょく台」(出典:「新しい道徳 6」東京書籍)

### 3 主題設定の理由

#### (1)ねらいや指導内容について

本時は、小学校第5学年及び第6学年の内容項目「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」に関するものである。これは、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することの大切さを育てることをねらいとしている。

この内容項目について、他の学年との関連をまとめると以下のようになる。

小学校第3学年及び 第4学年 B	小学校第5学年及び 第6学年 B	中学校 B
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

相互に理解し合う関係であるためには、自分の考えや意見を正確に相手に伝えることが必要であり、人は誰も不完全な存在であり、至らないところがたくさんあると自覚することである。自分も同じような過ちを犯す可能性があり、自分にはない多くのよさが相手にあると、自分に謙虚であることが相手の過ちに対して許すことにつながる。また、自分には至らないところがあるという謙虚さは、ものの見方には絶対はありえないと、色々な考え方に立って物事を見ようとし、異なる意見や考えをもつ他人を受け止める寛容さにもつながる。このように謙虚さと寛容さが一体となったとき、「広い心」が生まれ人間関係を円滑にするものとなる。

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。自分自身が成長の途中にあり、至らなさをもっていることなどを考え、自分を謙虚に見ることについて考えさせることが大切である。

高学年児童の段階においては、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、この時期には、考えや意見の近い

者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。

## (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、明るく元気で活発な児童が多い。学習の中でペアや班で話し合いなど活発に行うが、発言をする児童や活躍する児童が限られており、友達の目を気にして目立つことを避ける雰囲気もある。また、仲の良い友達や頑張りが見える友達に対しては許すことができたり、励ましたりすることができる。しかし、一方で利己的な考えをもち、相手の意見を聞かず、批判したり、無関心な様子を見せたりして、色々な友達の意見や考え方を受け止めることができない児童もいる。

国語科や算数科では自分の考えをペアやグループなどで相手に伝え、友達の考えも受け入れ考えを深めることができている。体育科では、技のポイントなどを共有し、友達のできばえを伝えることができている。

道徳科では、「ブランコ乗りとピエロ」を通して、色々な人と分かり合うために大切なことは何かを考えた。児童たちからは、「自分の考えを相手に伝えることと共に、違う意見も受け止めることが大切。」「相手の良さも認める。」などの考えが出てきた。

これらを踏まえ、改めて本時では、教材を通し、相手の立場や事情を理解しようとする中で、自分にもその相手と同じ状況になる可能性があるという謙虚さをもって認められるようにしたい。そして、それを許すことのできる寛容な心と、互いに不完全な人間であるからこそ相手の立場に立って考えられる広い心の良さを考えさせたい。

## (3) 教材の特質や活用方法について

ジャン・バルジャンは長い服役を終え、出所してきたが、誰もが敬遠する。そんなときにミリエル司教はジャン・バルジャンを温かく迎える。しかし、ジャン・バルジャンは銀の食器を盗んで逃げてしまう。憲兵に捕まって連行されたジャン・バルジャンに対し、ミリエル司教は怒るどころか食器はあげたものであると言い、更に銀の燭台まで持たせるという内容である。

銀の食器を盗まれたのにも関わらず、ジャン・バルジャンを許す場面や憲兵に連れてこられた時に銀の燭台も差し出す場面から、どんな人にも寛容であるミリエル司教の考えを中心に他者理解や人間理解を深めたい。また、ミリエル司教の言動から、見た目や行動だけにとらわれず、相手を理解し、信じ、謙虚な心をもって相手の過ちを許すことの大切さを自我関与させながら考えさせたい。

本時は、「地位や立場による寛容さ」といったことを教えることを目標とするのではない。人間の本質としての寛容さを考えていくことが大切である。

そのために本時の話し合いでは以下の流れに沿ってねらいにせまっていく。

- ①ジャン・バルジャンは19年の服役を終え、出所してきたが、誰もが敬遠するジャン・バルジャンを温かく迎え入れた場面から、ミリエル司教はどんな気持ちだったのだろうか。
- ②「わたしたちのものだったのだろうか。」と言った時、ジャン・バルジャンのことをどう思ったのだろうか。
- ③ミリエルは、ジャン・バルジャンを許すだけでなく、なぜ燭台まであげた方がいいと思ったのだろうか。

(補助発問)ミリエルに燭台を渡され、気を失いそうなほど体が震えていたとき、ジャン・バルジャンはミリエル司教のことをどう思っていたのだろうか。

以上の理由から本主題を設定した。

#### 4 研究主題との関わり

・研究主題及び仮説に迫る手立て

学校教育目標	・自分で考え 実行する子 ・みんな仲良く 優しい子 ・のびのび元気なたくましい子
研究主題	『自己の生き方を考え、主体的に実践しようとする児童の育成』 —「考え・議論する」道徳授業の創造を目指して—
目指す児童像	明るい心でよりよい人間関係を築き、相手の気持ちを考えて行動する子

##### 【仮説1】

道徳科において、児童が問題意識をもち、議論の生まれる学習展開の工夫をすることにより、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

《具体的な手立て》

##### ① 学習問題の明確化

導入では、授業全体を通して追究していく学習課題を掲げ、問題意識をもたせることでねらいとする道徳価値への方向付けを図る。

##### ② 児童相互の話し合いを深める手立ての工夫

ペアや小グループでの話し合いや意図的指名、問い返しの発問を適宜行うことでねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えながら、児童一人一人が課題に対する納得解を導きだせるようにする。

##### ③ 板書の工夫

ねらいとする道徳的価値についての考えを対比的に示し、学習の流れや児童の思考過程が見えるようにする。

##### ④ 指導観シートの活用

指導観シートを作成、活用し、教材を通して何を考えさせるのか、どういう発問をすることで児童が主体的に考えるのか吟味し、明確な指導観をもとに授業を構想する。

##### ⑤ 児童の自己の成長がわかるワークシートの工夫

展開後段では、教材を離れ、書く活動を通して、ねらいとする道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深めさせる。また、話し合い前と話し合い後に同じ発問をすることで、成長を児童が感じることができるようになる。

##### 【仮説2】

全教育活動における道徳教育を計画的・発展的に指導することによって、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができ、主体的に実践しようとする児童が育つであろう。

《具体的な手立て》

##### ① 生きて働く別葉の作成と活用

別葉を作成し、相互理解、寛容について、各教科等の活動で意識して子どもたちに働きかけてきた。その上で、本時の学習では「補充」を意図して授業を行い、道徳的価値の意味や自己との関わりについて考えを深めることができるようにする。

##### ② 道徳重点目標の意識化

道徳重点目標に関わる授業の足跡を掲示し、授業で考えたことを振り返ったり、日々の生活の中で意識化したりして、よりよい生き方を見つめることができるようにする。

③ 日常生活を想起する

導入では、児童自身の相互理解、寛容についての考えを日常生活の関わりの中から想起させ、自分との関わりで考えることができるようにし、問題意識を高めて学習に取り組めるようにする。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 「広い心をもつこと」について考える。</p> <p>○ 広い心をもつ人とは、どんな人のことだと思いますか。</p> <p>・ 広い心をもつことをどう思いますか。</p>	<p>・ 優しい人</p> <p>・ 相手のことを考える人</p> <p>・ いろいろと許してくれる人</p>	<p>・ 授業全体を通して追究していくテーマを掲げて問題意識をもたせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。</p> <p>・ 日常生活と関連付けながら、自分事として考えられるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">広い心をもつこと</div>			
展開	<p>2 教材「銀のしよく台」の条件・状況を確認し、話し合う。</p>	<p>・ 長い服役を終えたばかりのジャン・バルジャン。どの宿屋からも敬遠され、やっとミリエル司教の家に泊めてもらえることになる。温かく向かい入れたミリエル司教。銀の燭台に明かりを灯し、銀の食器で食事をもてなす。しかし、ジャン・バルジャンは、深夜に目を覚まし、銀の食器を盗んで逃げてしまう。</p> <p>(1) ジャン・バルジャンを迎え入れたとき、ミリエル司教はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>(2) 「わたしたちのものだったのだろうか。」と言った時、ジャン・バルジャンのことをどう思ったのだろうか。</p> <p>(3) ミリエル司教は、ジ</p>	<p>・ 本時は、教材を通じて「広い心をもつこと」について考えることを伝える。</p> <p>・ 見た目で判断せず、ジャン・バルジャンを受け入れるときの思いをミリエル司教に自我関与して考えさせる。</p> <p>・ ジャン・バルジャンを受け入れ、食器を盗まれたにも関わらず、相手のことを考え、心配する司教の気持ちを自我関与して考えさせる。</p> <p>・ ミリエル司教が地位や立場からジャ</p>

	<p>ジャン・バルジャンを許すだけでなく、なぜ燭台まであげた方がいいと思ったのだろうか。</p> <p>・ミリエル司教にしょく台を渡され、気を失いそうなほど体が震えているとき、ジャン・バルジャンはミリエルのことをどう思っていたのだろうか。</p> <p>3 学習課題について考えをもつ。</p> <p>○広い心をもつことについてどう思いますか。</p> <p>・みなさんは広い心をもって生活してきましたか。振り返って考えましょう。</p>	<p>思ったから。</p> <p>・これからのジャンのことも考えている。</p> <p>・ジャンに普通の生活に戻って欲しいと思ったから。</p> <p>・ジャンにも明るい未来はあるはず。自分にできることをして応援したい。</p> <p>・すごい人だな。こんなことをしても許してくれるなんて。</p> <p>・自分のことを許してくれるなんて、なんて心の広い人なんだ。</p> <p>・私のことを真剣に考えてくれているんだな。</p> <p>・信じてくれたこの人のためにも、ちゃんと生きよう。</p> <p>・難しいけれど、いいなと思った。</p> <p>・相手に希望を与えることだと思った。</p> <p>・他の人をよく考えることだと思った。</p> <p>・相手のことを認めて接していきたい。</p> <p>・誰でも失敗はある。だから許すことも大切だな。</p> <p>・相手の立場も考え、歩み寄っていきたい。</p>	<p>ン・バルジャンと関わっていたのではなく、どのような人柄で、どんな思いだったのか、広い心で相手の立場になって考えていることに気付かせながら、自分事として考えられるようにする。</p> <p>☆広い心に触れたジャン・バルジャンの言動をもとに気付いたことや考えたことを伝えている。 (発表、つぶやき、表情)</p> <p>・これまでの学習から、広い心をもつことについて考え、これからの自分自身の生き方につなげていく。</p> <p>☆広い心をもつことについて、自分の生き方と関連付けながら考え、ワークシートに書いている。 (発表、つぶやき、表情、ワークシート)</p>
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>		<p>・広い心をもって生活してきた教師の経験について話す。</p>

## 6 他の教育活動との関連

事前指導	縦割り班活動(なかよしタイム・オータムフェスティバル) 異年齢集団の活動を通して、色々な意見を聞き入れ、相手の思いや考えも大切だということに気付かせ、向上的な活動計画立をてさせる。
道徳科	5月「ブランコ乗りとピエロ」 主人公の心の変容を話し合うことを通して、自分とは異なる見方や考え方があることを理解し、互いに分かり合うために、謙虚さと広い心をもって受け止めようとする心情を育てる。 12月「銀のしょく台」 相手を許し考えられる登場人物について話し合う活動を通して、謙虚な心をもって相手を許すことの難しさや素晴らしさに気づき相手の過ちや失敗を広い心で受け止めようとする心情を育てる。
事後指導	社会科見学「国会議事堂」「江戸東京博物館」 自分の考えや意見を相手に伝え、お互いの意見を尊重しグループ見学ができるようにする。 体育科「アタックキャッチバレー」 チームで作戦などを立てることで、お互いの意見を聞き、なぜそのように考えたのか相手の立場に立って考えられるようにする。

## 7 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・広い心とはどういうことか、ミリエル司教の言動をもとに多様に考えている。

### 【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・広い心で相手の過ちを許す大切さについて自分との関わりで考えている。

## 8 板書計画

